猿新聞

サル対策は難しい

名張地方には、青蓮寺湖を境に東には名張Ａ群、西には日本でも最大規模といわれる遊動域（約54ｋ㎡）をもち個体数も60頭前後と比較的大きな名張Ｂ群がおり、双方の群れとも人慣れが進み農業被害は無論、住居侵入など各地で大きな被害を出しています。

近頃は、Ａ・Ｂ群とも追い払い強化のためか?、遊動域が拡大しているように思います。

『猿害』は、すべての害獣対策のうちでも最も困難だといわれています。手は無論のこと足も人間の手以上の働きができ、高所もいといません。

『猿害』を制すれば、すべての害獣を制するとまでいわれています。

全国的に様々な方法で防除を試みておられますが、これといった成功策は聞こえてきません。

サル対策は、人間とサルの住み分けを前提とし、人の生活圏でのサルの採食機会を減らし、人間に対する警戒心や恐怖心を高めることが必要で、農地や集落内がサルの行動域にならないよう、追い払い等によって学習させることが大事です。

４月、下旬から６月下旬がサルの出産時期で、春野菜最盛期と重なります。出産を終えた雌サルは食欲旺盛で栄養価の高い春野菜を狙います。

また、子供を守るために警戒心が強く人的被害も心配され時期でもあります。

これから秋の交尾期までハナレザルの出没が多くなります。ニホンザルのオスは成長し大人になると生まれた群れを離れて行きます。これは群れ内での近親交配を防ぐための習性です。雄同士でグループになることもありますが、単独で放浪することがほとんどです。

秋になるとハナレザルが交尾の機会を狙って群れに近付いていきます。

ハナレザルはどこにでも出没するのが特徴です。大抵は２～３日で移動してしまいますが、何週間も同じ地域で目撃する場合は、エサ場を見つけ居ついてしまった可能性があります。ハナレザルは人慣れが進み非常に危険です。また、Ｂ群では住居へ平気で侵入するサルが２～３頭おり、家の中を荒らす被害が報告されています。これらを放置していると人身被害につながりかねません。

人慣れした離れザルや、住居侵入ザルを特定し、早急に駆除対策を講じる必要があります。

中山間問題

名張地方では、中山間地域といっても殆どが山間地域に属するところが多いです。

中山間地域は国土の約６８，８％、農家戸数の約４２、２％、耕地面積の約４２，１％を占めており決して無視できない重要な位置づけにあります。

高齢化や条件不利のための農業離れ、それに輪をかけた獣害問題が深刻化しています。農業離れによる人口減少・農地や森林の放棄地の拡大などにより、サル、イノシシ、シカなどの在来野生動物や外来動物のアライグマなどが、急激に増加しています。

特に、鹿対策には悲鳴を上げています。

天敵がいない現状ではこれからも増加の一途をたどります。いま、山間地域では地域ぐるみで侵入防止柵の設置を進めていますが、大きな効果を得られていないのが現状です。

これだけ増えた現状では捕獲以外は考えられません。シカの捕獲強化を促進し、シカ肉の活用対策を進めるべきです。

「シカ肉を食べてシカを減らす」。一挙両得です。

日本の農業の約半分を担っている中山間地域を救うには獣害撲滅が「いの一番」です。

編集・発行
山村　準
tel:0595-63-1725
Email
jyun.y@asint.jp

シカが森を壊す！山を崩す！

写真右は、赤目町龍神山での樹皮食害。「ディアーライン」が広がっています。防護ネットは踏み倒され、林道の所々に崩落も見受けられました。（24年8月撮影）

写真左は、矢川での道路法面の被害。矢川では集落を囲むように防護ネットが張られているので、行き場を失ったシカ達は「ヨモヤここは通らない?」と思っていた垂直な崖を、抜け道にして、夜ごと出入りしているようです。法面は危険な状態になっています。

◆シカは垂直な崖は平気で歩ける。『鵯越の逆落(ひよどりごえさかおとし)』を忘れていました。（25年４月撮影）

◆「ディアーライン」＝シカが食害できる高さ。

サルの出没状況
名張A・B群

指南員報告

写真＝Ｈ25年度獣害対策指南員。

4月の動向

名張Ａ群は、３週間ほどつつじヶ丘南７・８番町、伊賀南部最終処分場、青蓮寺ダムの日当たりの良い限られた地域を移動している。

★伊賀地区のサルがＡ群エリアに浸入。同サルが長瀬地域農作物に被害。直ちに伊賀地区エリアに追いかえした。

名張Ｂ群は、移動範囲が広く多くの集落で出没を確認している。遊動範囲が広いため、受信不能の日がある。

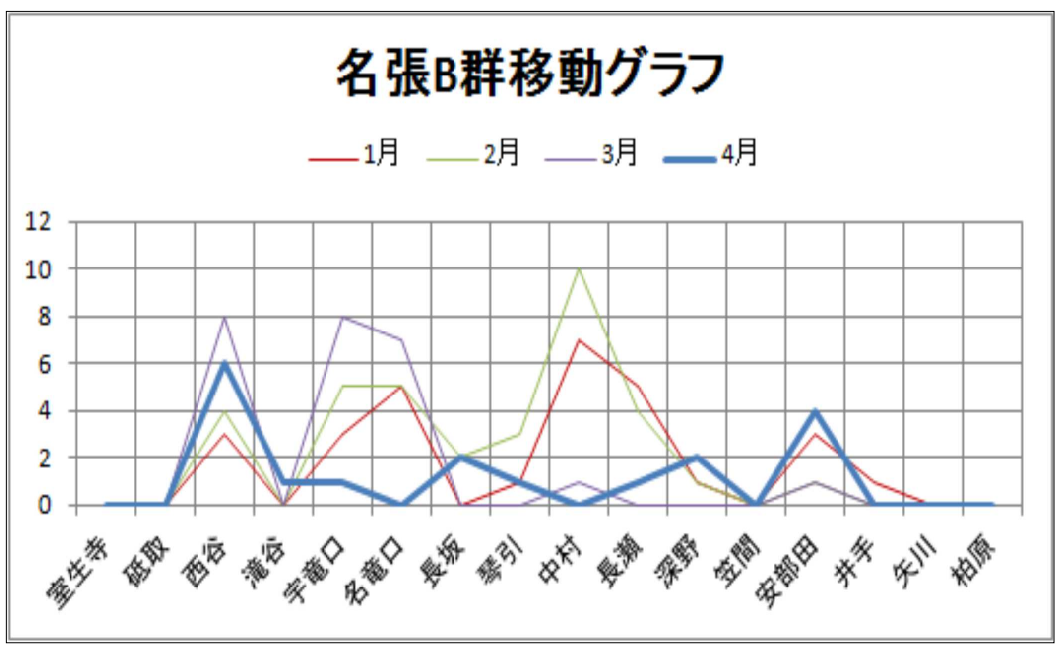
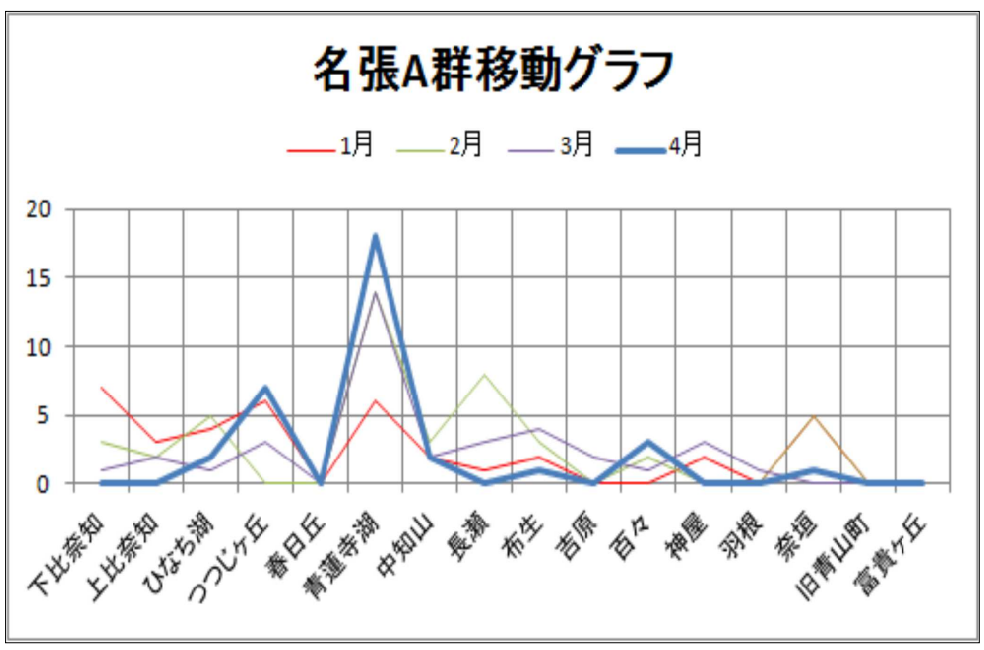
西谷集落周辺ではハナレザルが玄関を開けてはもちろん、ガラスを割って侵入し、部屋の中の食べ物を物色する被害の報告が聞かれる。

訓練士養成講習

宇陀・名張地域鳥獣害防止広域対策協議会では、ＭＤ育成訓練士養成講習を、昨年度から実施しています。

長野県大町市を皮切りに効果的な獣害対策としてＭＤに大きな期待が寄せられています。

宇陀・名張地域では、２１頭のＭＤが活躍していますが、まだまだ駒不足は否めません。

参加されている皆さんは、それぞれ仕事を持ちながら、地域の獣害対策のためにという、熱い気持ちで取り組んでおられます。

ＭＤ育成訓練士に向け特訓中の皆さんと犬達
左からユリネ、ボゥ、ノボル、グレート、キララ。